

令和6年度 学校関係者評価及び改善策

( 中間 **最終** )

安浦中学校区 校番 32 学校名 安浦小学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	○子どもの実態に合わせた目標や指標が設定されており、各クラスの授業も目標を意識した上で創意工夫しており、適切であると感じた。 ○3学期の授業参観で、どのクラスも学びへの意欲やクラスを盛り上げようとする雰囲気を感じた。
目標達成のための方策の適切さ	A	○子どもの主体性を引き出すための工夫がされており、一人ひとりの児童の特性や学力に合わせた学びが保障されるよう、教職員の連携が大切にされている。 ○豊かな心を育むため、協働の心を育てる部分で、高学年がリーダーシップを発揮できる場面づくりができたことは、大きな成果であると感じた。
自己評価の結果の分析の適切さ	A	○学力づくり、豊かな心づくり、命を守る、健やかに働ける職場づくりを学校全体の達成目標として高いレベルで取り組んでおり、結果として、保護者や地域が深く学校教育や経営に関わりやすい状態を作っていると感じた。
今後の改善策(案)の適切さ	A	○業務改善については、現場での取組に加えてAIを取り入れた授業計画づくりに視点を置きながら、教員のスキルアップを図り、少しでも良い結果につながるよう、業務分担も含めて進めてほしい。 ○どの項目も今後の継続が重要であり、更なる定着を期待したい。特に防災教育は年々薄れていく記憶を呼び覚まし、語り継いでいくことで、確かなものとなるよう、保護者や地域を巻き込んだ取組をお願いしたい。
その他		○通学路における児童の安全について、警察や保護者、地域と連携して、点検や啓発、改善をお願いしたい。 ○来年度のクラス減に伴い、今にも増して教職員にとって多忙になることが予想されるが、このことは、子ども達の教育環境に直結する問題であると感じる。教職員の働き方改革については、重要課題である、タブレットやAIがどのように活用されていくか、今後も注視していきたい。

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	<p>○児童の確かな学力の向上を図るため、引き続き、児童が「分かる・できる」と感じる授業改善を推進する。</p> <p>○児童の「協働」の心を育てるため、学校行事や縦割り班活動の取組を充実させる。</p> <p>○児童や地域の実態に沿った安全教育を推進し、児童の「自分の命は自分で守る」ための実践力を高める。</p> <p>○防災教育の充実に向け、「安浦小防災教育カリキュラム」を作成し、発達段階に沿った系統的な指導の充実を図る。</p> <p>○教職員がゆとりをもち、児童と向き合う時間が確保できるように、行事や業務内容の見直ししたり、AIドリル等を効果的に活用したりして、働き方改革を推進する。</p>
--------------------	---